

様式 4

平成 26 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 河田 雅志

評 価 日	平成27年3月13日(金)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について		
(1) 重点目標の達成状況		
1 主体的学習者の育成		・ 目的を再確認して学力向上に向けて取り組みたい。
・ アクティブラーニングでは、生徒同士が教えあい学びあう手法を取り入れているが、学びあう姿だけが目標とされるのはよくない。学力の向上を目指してほしい。		
2 キャリア教育の充実		・ センター試験で得点を上げることができた。2次力もついていたので、ランクUPの意味でより難易度の高い大阪大学が増えた。今後も生徒の力を伸ばす努力をしていきたい。
・ 昨年度は名古屋大学の合格者が多かったが、今年度は大阪大学が多くなっている。より難関大学へ挑戦できる生徒を育ててほしい。		・ 本校では1年生全員がボランティア活動を行い、12月に発表会や講演会を行っている。高校生になると通学域は広範囲となるため地域と結びつく活動は難しいと考えられるが、校外での活動を継続して行いたい。
3 積極的な活動の創成		・ 広報の内容を検討し、広報効果の高いものとなるよう工夫したい。また、魅力となるような内容をお伝えできるように取り組んでいきたい。
・ 地域と結びついた高校生の活動に期待する地元の声が多い。東高も地域と結びついた取り組みをしてほしい。		・ 特になし
4 広報連携力の更なる強化		
・ 東高の広報活動はうまくいっていると思われるが、スマホ対応のホームページや内容の工夫等により更なる効果が期待できる。併せて、学校の魅力作りにがんばってほしい。		
5 定時制教育の充実		
・ ルールを守ることを重点に指導をされているがまだ十分ではないので、社会人としてふさわしい力をつけていただきたい。		
(2) 説明・公表について		
・ 特になし		
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について		・ 特になし
3. 取組改善のための提言		
・ 新スクラム教育では、本校職員の取り組みが充実しており中学生に良い刺激を与えている。今後お願いしたい。		・ 一部の教員の取組とならないよう工夫したい。
・ アクティブラーニングの取り組みが着実に進歩していると感じた。今後も研究を続け充実した取組を行ってほしい。		・ 本校にあったかたちを模索したい。
・ 母校に誇りを持てるようなプロジェクトを立ち上げ、魅力を高めてほしい。そして中部地区から高校生が他地区に流失しないようにしてほしい。		・ 更なる魅力作りのために尽力したい。